

身を刺す風の冷たさも和らぎ、草木が色をもち始めたこの良き日に、私たち三十
五名は卒業の時を迎えました。

本日は多数の保護者の皆様、地域の皆様のご出席のもとにこのような盛大な卒業
式を挙行していただきますこと、卒業生一同心よりお礼申し上げます。

吉賀高校に入学してから三年間、私たちには、クラス、部活動、地域クラブ、生
徒会など、一人一人が活躍できる場がたくさんありました。そして、そこでたくさ
んの人と出会い、ともに楽しみ、お互いを高め合っていくことができました。

クラスで協力して行ったよしお祭の吉高マーケット。タピオカドリンクを販売し
ようとしたところ、前日にタピオカを水に溶かしてしまうというハプニングが起き、
急遽当日にみんなで必死にタピオカを手作りしました。当時のショックは大きかつ
たけれど、あのハプニングがあつたからこそ、クラスの団結が深まり、印象的で楽
しい、何年経っても笑い合えるような思い出になりました。

地域クラブでは、イベントのボランティアやライスバーガーの販売などをおし
てくださった地域の方々との交流がありました。私たちに期待を寄せ、いつも協力
してくださった吉賀高校支援室やコーディネートの方、地域のみなさんには
感謝しかありません。また、地域のみなさんと活動をともにしてきた地域クラブや
アントレプレナーシップの活動を進学や就職の試験に役立てた人も少なくありませ
ん。吉賀町での学びを次の学びや成長につなげていくことができました。これも
ひとえに、いつも私たちの向こう見ずな考えを真剣に聞き、協力してくださった地
域のみなさんのおかげです。本当にありがとうございました。

部活動や生徒会は、先輩や後輩と最も多くの時間をともにする活動でした。後輩
のみなさんにとって私たちは頼りない先輩だったかもしれませんが、一緒に活動を
して、一緒に笑ってくれてありがとう。発表や大会、行事をみんなと乗り切ったと
きの達成感や楽しさは、一生に残るものになりました。

また、私たちの学習や日々を支え、生徒一人一人を見守ってくくださった先生方
にも感謝しかありません。毎日授業や部活動指導に加え、添削指導やくだらない相談
にもつき合ってくくださりありがとうございました。

そして、今まで側でずっと私たちを見守り続けてくれた家族のみなさん。いつも
私たちのことをよく考え、私たちの意思を大切にしてくださるようにならせてくれ
てありがとう。みなさんが家族でよかったと、ここにいる三十五名それぞれが心の中
で思っているはずです。これから迷惑をかけることが多々あるとは思いますが、一
歩一歩自分の決めた道を歩み、自立し、恩を返せるまで成長できるよう努力してい
きます。

最後に、三年間をともにしてきたみんな。朝、学校へ行きたくなくて憂鬱でも、
学校へ行きみんなとすごすうちに、いつもそんなことは忘れていました。これから

は気軽に会うことは難しくなりますが、お互いに、自分らしくこれからを楽しんでいきましよう。三年間本当にありがとう。春、暖かさにまどろむ五時間目、夏、学校帰りに入った川、秋、校舎全体を包む金木犀の香り、冬、休み時間のたびに集まったストーブ。三年間、繰り返し、当たり前に出会ってきたそんな日々。その穏やかな環境の中で私たちはたくさんの方々に支えられながら成長し、楽しい学校生活を送ることができました。今、改めて考えれば、それは当たり前などではなく、とても尊い日々であつたと気づきます。その日々を惜しみ、感謝の気持ちを持ちながら、今日、私たちはそれぞれの新たなスタートを切ります。これから私たちが生きていく社会は、夢や希望だけでなく、大小様々な困難や課題を抱えています。私たちはそこから決して目を背けず、その解決の一助となるよう学び続け、行動していかねばならないと思います。小さな学校で学んできた私たちですが、吉賀高校で学び成長してきた自分自身を信じ、自分ができることを積み重ねていけば、必ず大きな問題の解決にもつながるはずです。自分のことだけでなく、他者を思いやり、社会の一員としての自覚を持ちながら、学び続けていきたいと思っています。

今、私は胸を張って言えます。「吉賀高校でよかった」この言葉を以て答辞とさせていただきます。

令和二年三月一日

卒業生代表 谷元 美月